



第2回埼玉ワーカーズフォーラム報告

社会の中のワーカーズ・コレクティブ

3月30日コーププラザ(南浦和)にて、連合会が主催する「第2回ワーカーズフォーラム」が開催されました。今社会を取り巻く状況を知り、ワーカーズが事業していくうえでの心構えや考え方の確認をするという目的でTPPをテーマにしました。折しも安倍政権がTPP参加を表明した直後で、108名の参加者は熱心に耳を傾けました。また、ワーカーズの仲間からは地域に貢献する事業の様子が報告され、天笠氏からもコメントをいただきました。

《第1部 講演会》

「知らなかつた」ではすまされない！

TPP <環太平洋戦略的経済連携協定> がもたらす生活への影響

環境問題ジャーナリスト・法政大学講師 天笠啓祐氏

TPPに参加することは国の形も暮らしもかえてしまう大変なこと、これは世界経済が行き詰った結果であり、昔だったら戦争が起きていた。戦争の代わりにTPPなのだと天笠氏は説明しました。TPPは国との間の貿易障壁を取り払い、多国籍企業が他国での経済活動をやりやすくすることを目的としている。強いものが弱者を食るものにしてさらに強くなるための仕組みです。

報道ではこのTPPを自由な貿易・自由な競争と良い事の様に伝えています。しかし自由貿易とは日本の自動車を輸出しやすくし、代わりに食料が輸入されやすくなるということです。

さらに自由貿易は食の安全を脅かします。アメリカの企業は食品添加物の種類を増やし、残留農薬を増やして腐りにくい食品を作り、家畜に抗生物質やホルモン剤を与える食肉生産や、遺伝子組み換え食品などの効率を優先した食料生産をエスカレートさせています。今まででは各国の食品添加物や残留農薬、ホルモン剤、抗生物質、遺伝子

組み換え食品の規制がそれらの食品の輸入を食い止めていましたが、TPPに参加することで貿易障壁の撤廃を求める、規制緩

和の要求がさらに激しくなります。現にニュージーランドは食品表示制度の変更を求められ、カナダでは二酸化炭素排出規制の緩和が求められました。日本では2月から輸入牛肉の月齢制限を20か月から30か月に引き上げ、狂牛病感染肉の脅威が増えています。

また水や健康保険など人が生きるために必要な資源や制度も、多国籍企業に狙われています。国民の生活を守ろうとしても貿易障壁とされ、民間企業にやらせる方向になれば利益が優先し、最低限の生活が守られなくなる危険があるのです。

TPPへの参加を政府は表明しましたが、決してあきらめることはないと言います。地域コミュニケーションを大事に活動してきた「ワーカーズ」や「協同組合」などの組織が、同じ志を持つ人たちと世界的に繋がっていくことがあります大切になっていくことです。

私たちは、一日に3回も変えるチャンスがあると天笠氏は言います。良い物を買い、悪い物を買わなければ良いのだと。今までやってきたことにエールをもらい、これから目標を示してもらえた講演会となりました。



フォーラム会場風景



天笠啓祐氏

企業組合つくし 佐藤はるみ